

平成 30 年 4 月 16 日

各 位

土壌診断分析研究会
会長 斗澤 康広

第 7 回 土壌診断分析研究会の開催について(ご案内)

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。皆様方の土壌診断室では、日々土壌分析にお励みと存じます。

16 年前、土壌診断分析に自動化学分析装置を導入している分析機関を中心にユーザー研究会が結成され、分析法向上のための研修や会員相互の情報交換を目的とする研究会が毎年各地で開催されてきました。しかし、メーカー主体の研究会であったため、メーカーの一時的な都合により 2007 年以降自然消滅してしまいました。

そこで、改めて自動化学分析装置のユーザーが主体となって運営する研究会「土壌診断分析研究会」を 2012 年 1 月に立ち上げました。この研究会の目的は、迅速、高精度、安価で環境にやさしい土壌診断分析法を確立し、それを全国の土壌診断室に普及させることです。自動化学分析装置のユーザーに限らず、土壌診断分析に携わる機関や土壌肥料学分野の研究者あるいは関心の高い農家、分析機器メーカー・販売会社や農業資材関係者の皆さんにも参加して頂きたいと考えています。

「第 7 回土壌診断分析研究会」を別紙のとおり企画しましたので、皆様方にご参集頂きたく、ご案内致します。最近、土壌生物性診断に関心が高まっています。そこで、今回の研究会では、昨年
に続く土壌生物性第二弾として、東京農工大学の豊田剛己教授に特別講演をお願いすることにしました。どうぞ、ご期待下さい。

研究会への参加申込期限は、2018 年 6 月 29 日(金) です。

なお、今回の研究会でも参加頂く土壌診断分析機関の間で、土壌の手合わせ分析を実施します。今回は、これまでと異なり粒径の異なる土壌 2 点です。詳細については、別紙をご覧ください。

手合わせ分析への参加を希望される団体は、5 月 18 日(金)までにメールで申し込んで下さい。

土壌試料の発送は 5 月 7 日(月)からの予定です。

土壌試料の送料は着払いとなりますので、ご了承下さい。

手合わせ分析なしで、7 月 10 日(火)の研究会のみへの参加も大歓迎です。

以上

[手合わせ分析用土壌試料の送付と分析値の報告について]

- ① 風乾細土とした手合わせ分析用土壌試料 2 点を申込み受付後、随時送付します。
- ② 各土壌診断室の分析方法により土壌分析を行い 6 月 22 日(金)までに、分析結果表と分析法アンケート用紙をメールで事務局(東京農大発(株)全国土の会)に送って下さい。分析結果の送付が遅れる場合には、連絡(soil@nodai.ac.jp)をお願い致します。

「第7回 土壌診断分析研究会」開催次第

1. **研究会日時**:平成 30 年 7 月 10 日(火) 13:30 ~ 19:00
2. **研究会会場**:東京農業大学グリーンアカデミーホール 3 階大会議室
<http://www.nodai.ac.jp/seijingakou/access.html>
連絡先:090-5551-6663
3. **参加費**:4,000 円(資料代を含む)、情報交換会:4,000 円
情報交換会場:世田谷キャンパス 18 号館 1 階レストラン「すずしろ」
★ 参加費・情報交換会費の徴収は、研究会当日に会場受付で行います。

4. 日 程

- 13:30 挨拶:第7回土壌診断分析研究会開催にあたって
土壌診断分析研究会 会長
JA 十和田おいらせ 常務理事 斗澤 康広
- 13:45 基調講演 「土壌診断分析に基づく施肥改善事例」
土壌診断分析研究会 事務局長
全国土の会会長・東京農業大学名誉教授 後藤 逸男
- 14:45 休 憩
- 15:00 手合わせ分析結果について
全国土の会会長・東京農業大学名誉教授 後藤 逸男
- 15:30 特別講演 「土壌診断における土壌生物性分析の重要性」
東京農工大学 大学院教授 豊田 剛己
- 16:30 総合討論
- 17:00 事務局からの連絡、その他 閉会
- 17:30 情報交換会(懇親会):世田谷キャンパス 18 号館 1 階レストラン「すずしろ」
- 19:00 閉会

5. 参加申込み

別紙申込書で、2018 年 6 月 29 日(金)までに E-mail(soil@nodai.ac.jp)

により申し込んで下さい。

[問い合わせ先]

・東京農大発(株)全国土の会 E-mail:soil@nodai.ac.jp 電話・FAX:03-3426-1771

「第7回土壌診断分析研究会」における土壌手合わせ分析について

2012年1月に立ち上げました「土壌診断分析研究会」では、毎回土壌2~4点、6年間で13点の手合わせ分析を行ってきました。その結果、pH(H₂O)を除いて予想以上に大きなばらつきが明らかになりました。ただし、これまでの5回の手合わせ分析では、分析方法を指定せず、それぞれの土壌診断室の方法での手合わせ分析でした。

昨年6回目の手合わせ分析では、1点の土壌を各土壌診断室の従来法と東京農大で実用化した1M/L塩化ナトリウム溶液による一液抽出法の2方法で分析して頂き、両者間で著しい差がないことが判明しました。ただし、pHを除いて土壌診断室間で変動率10%程度以上の変動がありました。その原因のひとつとして、土壌試料の粒径による影響が考えられます。

そこで、7回目となる今回の手合わせ分析では、同一土壌を 2mm 全通と0.5mm 全通の2種類として、粒径の異なる土壌の化学性分析を行って頂くことにしました。分析方法は、各土壌診断室の方法とします。

今回、用意しました手合わせ分析用土壌は、養分過剰気味の施設土壌(黒ボク土)です。

なお、一部の土壌診断分析室には土壌生物性手合わせ分析の試行として、アブラナ科野菜根こぶ病休眠孢子密度測定(土壌化学性手合わせ分析とは別試料)をお願いする予定です。

本研究会の「どこで分析しても同じ結果が得られる土壌診断分析」の目的達成に向かって、ご協力をよろしくお願い致します。